『横浜ゴムとの本当の最終戦。有終の美は飾れず 10 位チェッカー』



シリーズ名：2026 AUTOBACS SUPER GT シリーズ
大会名：2026 AUTOBACS SUPER GT Rd.8「2026 AUTOBACS SUPER GT Round8 MOTEGI GT 250km RACE GRAND FINAL」
レース距離：1 周 4.801km×53 周

11 月 8 日（土）予選　天候：晴 コース状況：ドライ
公式予選：GT500 クラス 11 位：1:37.535

昨日に引き続き、雲一つ無い秋晴れのモビリティリゾートもてぎで開催される 2 連戦の一つ、最終戦。1DAY で予選と決勝が行われる。
サクセスウエイトは全部降ろされ、イコールコンディションでの決勝は第三戦に引き続き引き続き 250km レースとなる。

■ 予選
予選のアタックドライバーは昨日に引き続き、阪口選手。

気温/路面温度は 15 度/20 度と昨日とさほど変わらず、冷たい路面にいかにタイヤに熱を入れての予選アタックに入れるかが鍵となる。
10 時 15 分、1 回だけの 15 分間の予選が開始されるも、いつものごとく、コースに出る車は無く、タイミングを見て出ていく。残り 11 分で 2 台、残り 10 分半で 19 号車を含め 9 台、残り 9 分で 3 台が出ていく。
19 号車を含め、アタックラップに入る前は、コース上で随時ウイービングをしてタイヤに熱を入れるのが随所で見られている。4 周周回後、残り 30 秒を切って、1 発のアタックに賭ける。
阪口選手は 19 号車をそつなくまとめ、1:37.535 を出すも、暫定 9 位のタイム。他車もタイムを更新する中、結果は 12 位となりました。
予選終了後に、12 号車の走路外走行に伴うベストラップ不採用により、19 号車の予選結果は 11 位へ繰り上がりました。
予選結果は 100-36-64-17-8-14-23-38-12-39-19-37-24-16(No Time) となります。

予選コメント

【坂東監督】



『グリップが足りなく阪口選手の本来のアタックが出来ず申し訳ないです。
午後からの決勝は 6 列目からのスタートとなります。
来年からのワンメイクタイヤへの切り替えに伴い、ヨコハマタイヤとの 30 年間との集大成を形とするべく、少しでも上を見て、爆走していきます。
皆様の応援、よろしくお願いいたします。』

11 月 8 日（日）天候:晴 コース状況: ドライ
決勝 10 位

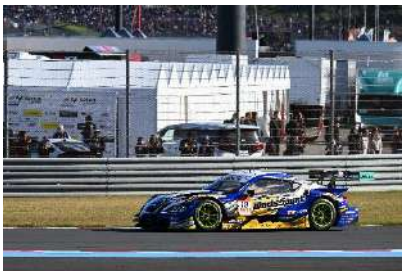
サクセスウェイトなしのガチンコ勝負。年間チャンピオンの権利を持つチームが 6 チームに絞られ、最終戦と相まってレース展開は激しいものになるだろう。
19 号車は選手権争いからは外れたものの、ヨコハマタイヤとの共闘の集大成を見せるためにも、表彰台の頂点を目指して爆走を誓う。

■ ウォームアップ走行
決勝レース前に 20 分間のウォームアップ走行が実施され、19 号車は決勝に向けてのチェック走行を行い、9 周周回で、1:38.871 のタイムで 11 番手となりました。

■ 決勝
スタートドライバーは国本選手。午前中の予選時の晴天は崩れること無く、気温/路面温度は 17 度/23 度。最終戦にふさわしい舞台は整った。
決勝前には、航空自衛隊の F2 戦闘機 2 機による歓迎フライトが実施され、最終戦に華を添えることとなりました。
午後 2 時、恒例の栃木県警の国産スポーツカーのパトカーと白バイによるパレードランを 1 周行い、引き続きフォーメーションラップ 1 周の後、レースがスタートした。
オープニングラップ 1 コーナーで減速しきれずにコースオフ、コースには復帰したものの、順位を 14 番手まで後退することとなるも、300 クラス 2 台の接触により、SC が出ることとなり、遅れていたギャップを取り戻す事ができた。
5 周目からレースが再開。決勝前に 16・37 号車がエンジン交換のためにスタート後にペナルティストップ 5 秒が科されている為、2 台がペナルティストップを消化し、19 号車は 12 位に。
一時、11 位とのギャップが出来ていたが、300 クラスとの混雑でギャップを縮め、18 周目に前の 64 号車をパスして 11 位に。
周回の 1/3 にあたる 19 周目に 19 号車を含めた 5 台がピットイン。19 号車はドライバーを阪口選手に交代してフルサービスを行い、暫定 13 位に戻る。ペースの上がらない 19 号車は、前の 24 号車とのギャップは 20 秒近くあり、我慢のレースとなる。
37 周目に 37 号車がピットに入り、順位が 12 位となるも、42 周に 37 号車にパスされ 13 位に。
残り 7 周目に、36 号車がピットに入ってしまったため、19 号車は 12 位にあがるも、その後は順位を上げること無く 12 位でチェッカーを受けることとなりました。レース終了後、リザルトが改訂され 10 位になりました。
レースはシリーズチャンピオン 1 位と 2 位の 100 号車、36 号車が 1 列目からのスタートとなり、ポールの 100 号車と 2 位の 36 号車が序盤から後続を引き離しにかかり、激しいトップ争いを展開するも。2 台同時にピットを行ったあと、100 号車が 36 号車を引き離し、単独トップでレースが進む。
36 号車も食い下がるが、300 クラスとの接触を起因としたトラブルでペースダウン、ピットインとなり、脱落。

結果、トップを一度も譲らなかった 100 号車が優勝。2026 年度のシリーズチャンピオンをも獲得することとなりました。
レース結果は 100-17-12-38-14-16-8-24-37-19-23-64-36-(以上完走)-39 となりました。









決勝コメント【坂東監督】



『最後に横浜ゴムと勝ちたかった。
チェッカーを受けた時
これで 2026 が終わったんだ
恩返しが出来なかったと悔しい気持ちでいっぱいだった。
レースは勝者がいて敗者がいる。
2011 年に自分が GT500 にステップアップしたくて
横浜ゴムさんにお願いして
自分の夢が一つ叶った。
こんなにも過酷で苦しい戦いだとは当時は思わなかった。
本当にチャンスをくれた横浜ゴムさんには感謝しかありません。
横浜ゴムと共に、というスローガンをかかげ

TOYOTA、LEXUS、GR と共に戦ってきました。
沢山のタイヤの勉強もさせて頂きました。
沢山のドライバーが乗ってくれました。
予選でもポールを沢山獲る事が出来ました。
本当にありがとうございました。
僕を育ててくれた横浜ゴムさんにはいつか必ず恩返しをします。』

【国本選手】



『あっという間に終わった 2026 シーズンでした。
ヨコハマタイヤとの最終年、結果を残せなかった悔しさが残りました。レースは 1 周目のミスで出遅れてしまいましたが、最後まで全力で走りました。共に戦ってくれたチーム、チームメイト、ウェッズさんを始めとするスポンサー様、そして僕は 2016 年から 19 号車に乗っているので長年支えてくれた横浜ゴム様の皆さんに感謝します。本当にありがとうございました。19 号車を応援してくださる応援隊の皆様、最後まで旗を振って頂きありがとうございました。』

【阪口選手】



『予選 11 位決勝 10 位でした。
レースではセカンドスティントを担当しましたがレース中盤のピックアップに悩まされ、ペースを上げられませんでした。後半はまた路温が冷え、ガソリンも軽くなり、ペースを取り戻せました。結果としては悔しいレースとなりましたがヨコハマタイヤの皆さんと 5 年間戦わせて頂き、沢山の事を学びました。一緒に仕事させて頂き感謝しかありません。改めてありがとうございました。』

本当に沢山の応援ありがとうございました。
必ず強いチームになって戻ってきます！
SUPERGT
https://supergt.net/pages
BANDOH
http://www.bandohracing.com/